

# 創立100周年記念事業の概要

創立100周年記念として次のような事業を展開しました。

## 一 屋内運動場「昇龍館」の建設

野外で活動する運動部が冬場や悪天候のもとでも練習可能なようにと屋内運動場「昇龍館」が建設されました。

構造：鉄骨造り二階建て  
規模：建築面積 九七五・〇〇㎡  
(二九四・九坪)  
延べ床面積 一、〇六九・四〇㎡  
(三二三・四坪)  
総工費：約六、八〇〇万円  
五月 七日 安全祈願祭・起工式  
九月 一八日 引き渡し式

## 二 ノースカロライナ州立理数高校との交流事業

本校生徒とノースカロライナ州立理数高校の生徒が、隔年毎に相互に訪問して、異文化体験を通して国際性豊かな人間性を育ててゆく目的で行われました。一回当たり一五〜一六名の生徒を受け入れ、派遣して、それぞれホームステイをしながら、相手校での授業やサークル活動に参加し体験するものです。期間は、平成一八年四月〜平成二二年三月の五年間で、一〇〇周年記念事業として前倒しで相互交流を進めました。

## 三 記念式典

日時 平成二二年一〇月一六日(土)  
一二時三〇分から一六時  
会場 奥州市文化会館(Zホール)

第1部 記念式典  
第2部 記念コンサート  
テノール歌手 福井 敬 氏  
ピアノ伴奏 谷池重紬子 氏  
第3部 記念講演  
講師 菊地 広哉 氏  
(IMGジャパン代表)  
演題 「活躍するアスリートに学ぶ生き方」

## 四 記念祝賀会

日時 平成二二年一〇月一六日(土)  
一六時四五分開会  
会場 プラザイン水沢

## 五 屋内運動場「昇龍館」完成見学会(校舎見学会)

日時 平成二二年一〇月一六日(土)  
一〇時から一一時三〇分  
会場 水沢高等学校校地内

## 六 創立一〇〇周年記念誌の刊行

内容 百周年のあゆみ  
付録 DVD(記念誌内容・式典等の映像データ イジエスト)

## 創立百周年記念式典

水沢高校創立百周年記念式典は一〇月一六日(土)、奥州市文化会館(Zホール)大ホールにおいて盛大に行われました。

会場には、生徒、職員をはじめ来賓、同窓生、保護者など一四〇〇名が参列。昭和五六年卒の久慈千鶴子さんの司会進行で、創立百周年を祝いながら、次なる百年に向けてさらなる飛躍を誓いました。

佐藤成人校長は創立以来の本校歴史にふれながら、水沢高校が「胆江地区をはじめ県南部の中等教育の一翼を百年にわたって担って」きたことを強調。そして、「県と国の内外を問わずあらゆる分野に有為の人材を輩出してきたのは地域の支えがあればこそ」と感謝しました。さらに「県下でも類を見ない広大な敷地と多くの施設は、この百年をかけて水高生のために整備されたものであり、水高生に寄せられた期待の表れです。その恩恵に応え、伝統を受け継ぎ飛龍第二世紀の幕開けを担うことが在校生の使命です。」と式辞を述べました。

式典は八重樫勝県教育委員会委員長が告辞を述べ、及川源悦郎百周年記念事業協賛会長が挨拶。長野耕定記念事業実行委員長が記念事業報告を行いました。その後、歴代校長や歴代のPTA・教育振興会長等へ感謝状が贈呈され、来賓として出席された小沢昌記奥州市長、千葉研二県高等学校長協会長から祝辞をいただきました。

生徒会長の小野寺亜美さんが在校生徒を代表して「これまでの百年、多くの先輩方が高い理想を持って学問と諸活動に励み、きらきら輝いて水沢高校を築き上げてきたことに思いをはせ、百年の重みを今この体にかけています。私たちは今、自分も水沢高校の歴史の一部だという自覚を持ちながら百年の歴史を受け継ぎ、それを進めていかなければいけない」と謝辞を述べました。最後に参加者全員で校歌を四部合唱。生徒、同窓生、保護者らのきれいなハーモニーが大ホールいっぱい響き渡りました。

参加した生徒からは「百年の伝統の重みを感じる式典で、水高生としての誇りを感じた。」(三年女子)「会場にいる全員で歌った校歌は鳥肌が立つほど感動した。」(二年女子)「偉大な水高の先輩方と同じ空間で今までの伝統を振り返ることができ、光栄でした。」(一年男子)等の感想が寄せられました。

式典は第二部に昭和五六年卒のテノール歌手福井敬さんによる記念コンサート、第三部には昭和五一年卒の菊地広哉氏による「活躍するアスリートに学ぶ生き方」と題しての記念講演が行われ、会場は感動と「飛龍第二世紀」への新たな意気込みでみなぎりました。

## 記念式典生徒代表謝辞

本日創立百周年記念式典にあたって、在校生を代表し、一言感謝の言葉を申し上げます。私

は中学生の時、音楽部の定期演奏会に行き、と

ても生き生きと輝いていた先輩方にあこがれて水沢高校に入学しました。実際の高校生活は勉強も大変で部活動との両立に苦労しています。これは私だけではないと思います。しかし、先輩方はこの試練を乗り越え、文武両道の道を突き進んできたからこそ輝いて見えたのだと思います。私は過去の生徒会誌『みずこう』を読むことで、水沢高校の伝統の一部を実感し、そして私の出会った先輩だけでなく、これまでの百年、多くの先輩方が高い理想を持って学問と諸活動に励み、きらきら輝いて水沢高校を築き上げてきたことに思いをはせ、百年の重みを今この体にかけています。私たちは今、自分も水沢高校の歴史の一部だという自覚を持ちながら百年の歴史を受け継ぎ、それを進めていかなければいけないと思っています。

葉といたします。

平成二二年一〇月一六日

生徒代表 小野寺 亜美

伝統・誇りの継承者たらん  
— 生徒の声 —

OBの皆さんの輝きに勇気をもらった

創立百周年という大きな節目を迎える年に、この水高に在籍し、しかも最高学年で迎えられたことはとても喜ばしいことであつたと思います。Zホールが埋まるくらいのOBの方と来賓の方々が集まって下さり、校歌も本当に素晴らしく響き渡り、大成功だつたと思います。どれだけ皆が水高を愛し、誇りに思っているかが分かつた瞬間でした。そして今活躍している福井敬さんをはじめOBの方々の輝いている姿を見てとても勇気づけられたし、自分も将来を考えてこれから頑張つて努力していこうと思いましたが、卒業生である祖母も言っていました、改めてこの水高生であることに誇りを持ち、これからも生きていきたいと思えます。

(三年 IMさん)

『水沢高校』という意味の重さを感じた

今回のこの百周年事業を通して、今までは水高の歴史とか伝統というものに対して深く考えたことは無かつたけれど、『水沢高校』という意味の重さを感じることができた。地域の中でも期待を背負っているということをもっと自覚し

ていかなければならないと感じた。また、福井さんや菊地さんをはじめとする偉大な先輩方がいる中で、自分もその人達に近づけるように日々の精進、努力を怠つてはられないとも感じた。だから、これから残されている少ない水高生としての時間の中で胸をはって卒業できるように、また、後輩達から尊敬される偉大な先輩となれるように頑張りたい。

(三年 KYさん)

水高の素晴らしさ実感

校歌はあのホールいっぱい響いていて、正直鳥肌が立った。来場者数だけでも「水高」って素晴らしい伝統のある学校なんだと実感したし、改めて百周年という年に卒業できることに喜びを感じた。コンサートや講演に関して世界で活躍している方が身近にすることが凄いことだと思つた。将来、自分の母校が誇りに思えるように、これからも伝統を大切にしたいと思つた。

(三年 OYさん)

水高大好き—ただただ感動

OBの方々に囲まれての式典、まして目の前がOBの方という席だったので緊張しました。ですが、思い出話に花を咲かせるOBの方々を見ているうちに、みんな水高が好きなのだと思います、なんだか仲間意識を持ち始め、最終的にはただただ感動でした。きつと会場にいる人全員がそう思えたから、校歌が素晴らしかつたのだろうと思えます。次の水高の記念式典は何年後

になるか分かりませんが、ぜひOBとして参加したいと思えます。

(三年 KEさん)

水高野球部 甲子園へ—OBとして支えたい

記念式典では、水高出身の先輩方が沢山来ていて、貫禄というか風格というか雰囲気の違いを感じました。野球部のOBの方もお話してき、いい機会を得ました。今年の野球部は、百周年という節目としても戦力的にも狙えると思つていた甲子園でしたが届かなかつた。けれど、今度はOBとして後輩を支えなければならぬといった話をした。まったくその通りだと思つた。自分は沢山の人に支えられ過ぎた。どこまで恩返しできるかは分からないけれど自分も一人のOBとして、また創られる新しい歴史に携わっていききたいものだと感じた。その点で菊地氏による講演は、これからのためにととてもいい話であつた。

(三年 NKさん)

節目の年に在籍できた喜び—一員としての自覚感じた

創立百周年式典に参加し、水高の同窓生で活躍している皆さんや祝いの言葉をくださる沢山の人を見て改めて百周年という記念すべき節目に在籍できたという喜びと、また、その一員であるという自覚を感じる事ができました。そのためか、現・元水高生の校歌合唱は今ままで一番のものになつたと思えます。

福井敬さんのコンサートでは、オペラは今まで聴いたことは無かつたけれど、逆にそのよう

な音楽に触れることができとても良かったです。マイク不使用でもホール全体に声が届いていて、その声の大きさに驚きました。

菊地広哉さんの講演では二九五番からでもそこからのやり方次第ではいくらでも上がることを知り勇気づけられました。私もあのアスリート達と同じように目標位置から自分を見直したいです。

(三年 KMさん)

百周年の重み感じた

記念式典では卒業生や旧職員、この百年という長い間に水高に関わつてきた多くの方々が来て、百周年記念式典の重大さというか重みを改めて感じた。校歌を歌つた時にOBの方がめちゃくちゃ大きな声で歌っていてびっくりしたけど、水高は愛されているんだな—と思つた。校歌、ほめられてよかつたです。もう、在校生として二度と参加することのない式典に参加できたことを嬉しく思つた一日でした。

(二年 SRさん)

長い歴史と伝統—誇りの継承者たらん

百周年記念式典に参加して、百年という歴史はとても凄いなあと実感しました。そして、その長い歴史を持つ水沢高校の生徒であることに誇りを感じました。伝統というのは、私達の先輩が何年もかけて積み重ねたことにより作られているので、その伝統を私達が壊さずに後輩に引き継いであげなければならぬと思えました。福井敬さんのコンサートはとても素晴らしい

ものでした。知っている曲が多かつたし、一緒に『ふるさと』を歌つたりと楽しみながら鑑賞できました。

(一年 MNさん)

会場を魅了した福井敬さんコンサート

心に残つた福井さんの歌声  
百年に一度しかない本当にプレミアムな年に、三年生として在籍することができて嬉しい気持ちと同時に誇らしい気持ちになりました。  
卒業された先輩方のお話を聞いていると、水高への熱い思いが伝わってきました。自分も残り半年で卒業ですが、母校を誇りに思い、いつも光っている人間になりたいなあと思えます。  
福井敬さんのコンサートが一番心に残りました。偉大な先輩の素敵な歌声を聞くことができ、とても幸せな一日でした。

(三年 AMさん)

迫力と豊かな表現に魅了

たくさんの方々の挨拶や表彰によって、今までの百年間は本当に色々な人達に支えられ歴史を作ってきたのだなと思えました。式典の最後に校歌を歌つたとき、ステージで聞いていて、生徒はもちろん全ての人が誇りを持って歌っている感じがしてとても素晴らしい合唱だつたと思います。

福井敬さんのコンサートは以前に一度聴いてとても感動したので、今回聴けて本当に嬉しかつたです。それに、ステージから会場の客席

まで降りてきたときに至近距離で聴くことが出来たのですが、音量はとても迫力があつたし表現が豊かで情景が浮かんできました。水高の高校生活をイメージしながら歌っている、という曲がありました。福井さんが高校時代の思い出を愛おしく思つて歌っているのが伝わってきました。

(二年 SKさん)

もつと聞いていたかつた

福井さんの歌は、マイクを使っていないとは思えないほどきれいな声が遠くまで響いていてとても素敵でした。ピアノの音もとても澄んでいて、いつまでも聞いていたかつたです。三十分ではなく、もつと長く聞いていたかつたです。

(三年 TSさん)

誇らしく嬉しくなつた

福井敬さんは正直すごかつた。生でテノール歌手の歌声を聞いたことがなかつたのでとても驚いた。質問コーナーがあれば、毎日ポイストレーニングはどんなことをしているのですかとか、喉を大事にするうえで気をつけている食べ物とかはありますか、などを聞いてみたかつたなあと思つた。コンサートがあればぜひ行きたいと思つた。

水高からあんなすごい人が出たのだなあとと思うと誇らしく思うし、すごく嬉しくなつた。腹式呼吸を完璧に使いこなしたい。

(三年 STさん)

印象に残ったコンサート

福井敬さんのコンサートがとても印象に残っています！のびのびとした深い響きの歌声がとても気持ちよかったです。一人だけなのに様々な雰囲気の世界を音楽で創り出すことができて素晴らしいなあと思いました。また機会があったらぜひ聴いてみたいです。

(二年 TAさん)

有意義だった菊地広哉さん講演

将来への希望になった

講演が特に良かった。普段聞けない話が聞けたし水高出身でこういう職に就いている人がいるのは、われわれの将来への希望にもなる。そういう仕事に就くには、やはり大学でも勉強してしっかりしなければならぬと感じた。また、アスリートも様々なプレッシャーと闘い、それに打ち勝ち結果を得ているのだから、自分も重圧に負けず結果を出していきたいと思った。

(二年 TSさん)

「テキトーに逃げない」で夢に向かって頑張る

百周年記念式典では、菊地広哉さんの講演が特に印象に残りました。名前を聞いたときは、どんな仕事をしているのか、どんな人なのか全く分かりませんでした。しかし、話を聞いてみると自分と同じ地域に住んでいたこと、スポーツマネージメントという仕事についてのこと、有名なアスリートの人達のことなどとても

興味を持てる話で、夢のような話ばかりで驚きっぱなしでした。

今から努力すれば沢山の道に進むことができると思います。自分も「テキトーに逃げない」で夢に向かって頑張らなくてはいけないなあと感じました。

(二年 OGさん)

有意義な講演でした

百周年というプレミアムなときの高二として在籍していたのは将来きつといい思い出として残るだろうと思った。校歌も練習の成果が出たのではないかと思う。コンサートは素晴らしい。講演会は、色々なことを学べたしおもしろかった。①足りないものを補うために何が必要か②目的を果たすために何をすべきか③やりたいことになりたいものをはっきりさせる④繰り返しがんばる⑤ライバルを大切にすること。以上のことを踏まえ、意識して勉強も部活もがんばろうと思った。有意義な講演でした。

(二年 STさん)

心に残った講演

最も強く心に残ったのは、講演です。菊地さんは、世界で活躍する人とそれに関わる会社、企業をつなぐ仕事をしていて、「その人の魅力を最大限に引き出す仕事」としていました。私もテニス部のマネージャーをしています。実は大変な仕事だと思っています。しかし、菊地さんはもっと大きく広い舞台の裏で働いていて、すごく格好いいと思いました。私も将来「人の

例外としては日系アメリカ人のクリスティ山口がオリンピックで金メダルをとりましたが、でもあれはアメリカとソ連の東西冷戦の頃の話しですから、アジア人がオリンピックで勝つのは本当に難しいことなんです。彼女らにははつきりと目標が見えていました。

二つめは、ゴールから今の自分を見るところです。この二人をはじめ一流アスリートの特徴は行きたいところ、成したいものをはつきり決めて、そこから自分をみる。山の頂上から下を見るとどう登ってくればよいか分かると思うんですが、それと同じように行きたい場所、たどり着きたい場所がはつきりと見えていて、そこから何が足りないかをみる。普通の人は「オレはそこまでは行きそうにない」「自分はここまでで良い」と限界を自分で決めちゃうんですけど、自分で「ここまでだ」と決めてしまう。でも、アスリートたちは違うんです、それがいいんです。自分では無理だと決めない、行きたいところをきちつと見て限界を決めない。そこに行くようにイメージしてやっていくんです。何故そんなことができるのかというと一つはテクノロジの発展があると思います。昔は、マスターズ、オーガスタといった名前しか知るよしもなかったのですが、今はさつき言いました衛星放送のテレビで見ることができたり、インターネットでコースが一つ一つ分かったりもの凄く具体的にみることができるようになっています。ですからやりたいこと行きたい場所が具体的にイメージできるようになった。最近のゴル

フの打ちっ放しの機械でもオーガスタのコースを体験できて、風の臭いまでオーガスタと一緒とまでいわれている。そういう点で今のアスリートは恵まれていると言えます。それらも活かし、目標から今の自分を見て努力するというのがアスリートの一つの特徴です。

三つめは、信じて疑わない強い信念をもってやるということです。浅田真央さんが今、ジャンプを変えていることは皆さんご存知だと思います。この間のジャンプオープンでも何回も転んでいましたが、スケートでジャンプはアウトサイド、インサイドと細かいルールがあり、三年前にそのルールが改定されて、それになかなか対応できない。対応できないままでもオリンピックで銀を取った。そのままでも良いようなものだけれどソチに向けて飛び方を全部変えようとしている。普通はジャンプの飛び方を変えるのに二年はかかる。ものすごく不利なだけけれど、でもこうと決めたら信じて疑わない。決めたらやるんです。

また、東尾さんという有名な野球のピッチャーだった方と食事する機会があったのですが、そのときに「東尾さんの時代は村田兆治さんとか野茂英雄さんとか凄い投手がおりましたね」という話したら、「彼らは虫なんだ、昆虫がものを運ぶように毎日毎日、飽きもせず本当に練習に励む虫なんだ、あのようにはなかなかできない」という事をおっしゃっていました。確かに、一流の選手は信じて疑わず毎日繰り返し繰り返し練習します。タイガーウッズが日本

ため」になる仕事をしたと考えています。今回、講演を聴くことが出来て本当に良かったと思います。ありがとうございました。

(一年 SFさん)

菊地広哉氏の講演

『活躍するアスリートに学ぶ生き方』

から一部抜粋

一流アスリートの共通の特徴

私がこの仕事を通じて見てきた一流アスリートの共通点ですが、一つは、目標がはつきりと見えていることです。石川遼君は小学校の作文に「一六歳で僕はプロトナメントで優勝するんだ、一八歳で日本オープンに勝って、二〇歳でマスターズ優勝する。」と書いてあるんですね。これは普通に考えたら相当クレイジーな話なんです。ところが、ただの小学生の夢だろうと思うと、実際に彼は一六歳でトナメントで優勝し、日本オープンは一八歳で二位でしたがやっています。浅田真央さんはどうかというと、小さい頃からオリンピックで金メダルをとりまうと言っていた。フィギュアスケートは、今、日本が強いから当たり前前に勝てそうな気がしますがけれど、もともとは欧米の貴族のスポーツでアジア人が勝つというのは至難の業なんです。

に来ていたとき一緒に行動するんですが、普通の練習の後でもさらに重たいトレーニングを三時間ぐらい繰り返すんです。馬鹿にされても繰り返し繰り返し練習しているのが一流の選手です。

それから、四つめですが、負けず嫌いということも共通した特徴です。なんでも一生懸命です。テキトーではない。タイガーウッズが日本に来たとき、宿舎にリラックスできるようなピンボールマシーンという得点形式のゲーム機があったんですね。もう寝る時間だよといって彼はやり始めたらかなかなか止めないんです。ゲーム機にある最高点数を抜かないうちは止めないといって夜遅くまでやっていました。本当に負けず嫌いなどころがあるなあと感じます。

また、五つめに、絶対に負けられないライバルがいることも特徴です。人間には限界があるものですが、この限界を打ち壊してくれるのがライバルなんです。絶対に負けられない闘いを通じて、切磋琢磨という言葉があります。本当に命を削るぐらいの闘いをやって、そして限界を打ち破る人が多いんです。テニスのロジャーフェデラーとナダルにしてもそんなことが言えます。フェデラーは全コートに対応できるすごい選手なんです。ナダルはどうしても拾って拾ってというタイプの選手でフェデラーには勝てなかったんですね。唯一勝てたのがローランギャロスという全仏オープンの土のコートときで、その他では勝てない。でも本当に血のにじむような努力をして〇八年のウイ

ンブルドンで相当追い込んで、去年はとうとう勝ちました。表彰式で優勝したナダルを見て準優勝のフェデラーが泣いたシーンなどがテレビに映っておりましたが、そういうライブがいろいろ特徴です。

### 「高校生のあなたへのメッセージ」

今、一流アスリートたちの生き方、特徴点をピックアップしてみました。そこからのエッセンスを拾って、「高校生のあなたへのメッセージ」としてまとめてみます。

一つは、「やりたいこと、なりたい自分をはっきりイメージしてください」ということです。どうでしょうか、高校生の皆さんはなりたい自分をはっきりとイメージできているでしょうか。私は一八歳の頃はできていませんでした。三年四組私立文系で卒業して、とにかく東京へ行きたい一心で勉強して大学へ行つて、そこでも悶々としていました。今は、情報が豊富ですから、できれば皆さんには「やりたいこと」「なりたい自分」をできるだけはっきりイメージしていただきたい。

そして、二つめには自分の行きたいところ、ゴール地点から何が足りないかを考えてください。例えば、アメリカに行きたい。でも財布の中には一万円しかないとすれば、まずお金を貯めてという具体的な行動が出てくる。なりたい自分がイメージできたら、そこから今の自分を見て何をしたらよいか考えてください。

三つめには、繰り返し繰り返し続けるという

参加者は八〇周年記念館の『志學館』や九〇周年時に建設された『水龍館』など充実した各施設に驚きながらも、木造校舎時代を振り返り、広大な敷地と自然の中で青春時代を謳歌した当時を懐かしんでいるようでした。

## ●記念祝賀会

記念式典・記念コンサート・記念講演会をZホールで滞りなく済ませ、その後会場をプラザイン水沢に移して、盛大にこの記念すべき日を祝いました。この日は昭和四四年卒の小野寺宣文さんの名司会で、参加した三四〇名が和やかな雰囲気包まれて時を過ごしました。

福井敬さんの校歌一番のアカペラで華やかなオープニングの後、芳沢莜子祝賀会・行事専門委員長による開会のことば。及川源悦郎記念事業協賛会長と佐藤成人校長の挨拶、平野達男参議院議員の祝辞に引き続き、扇和会の二人による祝舞、長野耕定実行委員長の発声による乾杯で祝宴が開宴しました。

祝宴では、昭和四七年卒立命館大学教授及川清昭氏、昭和四八年卒仙台社保病院副院長の村上栄一氏のスピーチにつづき、昭和六一年卒NHKアナウンサーの阿部渉氏からのビデオレターを拝見。そして、奥州市民Z管弦楽団による応援歌をアレンジした優雅なBGM演奏の中で、水高の歴史を振り返るスライドショーが展開されました。同窓生もたくさん参加し、中々も、各支部からの多数の参加は大いに祝宴を盛

ことです。なりたい自分がイメージできて、何をすればよいか分かったら、人に馬鹿にされようと「虫」といわれようが、それは褒め言葉だと思つて、とにかく続けるということ。四つめは、「テキトーにして逃げない」ということです。やるんだつたら一生懸命やる。テキトーに限界を決めたり、「これでいいや」「やっぱ、止めた」と逃げないでください。

五つめは、ライバルの存在を大切にしよう事です。一流選手といえどもいつもいつも良いときばかりではない。必ず波がありますから不調に陥る。これは色んな選手から聞く話ですが、不調のときは、真つ暗闇の中を歩いているようなもので、幅が三〇cmくらいの細い道をトコトコと歩いている。下が崖でこつちが山になつていてそんな所で、石か何かが落ちると暫くしてチャポーンと遠くから聞こえてくるようなそんな恐い道を歩いているときのような感じなんです。そんなとき、ライバルの存在は足下を照らす月の光、普段はこの野郎と闘志を燃やす相手でも、そんなときは闇夜の月光のように思えてくるそうなんです。そこで自分の行きたい道がはっきりと見えてくるそうなんです。こういうライバルの存在がもう一段高いレベルへと押し上げてくれるんですね。

## ●屋内運動場「昇龍館」の建設

創立百周年記念事業の一環として建設が進められていた待望の屋内運動場「昇龍館」が完成

り上げるものとなりました。楽しく心が満たされるような祝賀会も、村上栄一氏のタクトで校歌斉唱となり、昭和四八年卒の千葉裕克PTA副会長の音頭で万歳三唱、引き続き芳後藤康次式典専門委員長の閉会のことばで記念祝賀会もお開きとなりました。

このほんのひとときの中で参加者全員が、水沢高等学校の歴史を振り返り、今後益々の本校の発展に大きな期待を寄せながら旧交を温め、水高への支援を誓い合つたのでした。

## ●ノースカロライナ州立理数高校との交流事業

平成九年度から岩手県が実施していた「高校生世界のかけ橋推進事業」が終了するのに伴い、ノースカロライナ理数高校との交流事業を、同窓会やPTAからの資金援助で、平成十八年から創立百周年事業の一環として前倒しで行うことになりました。

平成一八年は訪問、平成一九年は受入と交互に交流しました。実質百周年事業としては二回ずつの訪問と受入でした。訪問の際は生徒一人あたりの経費が約三〇万円（自己負担一五万円、残りを百周年事業費から支出）で、一五、六名の生徒と引率二名が渡米します。現地ではホームステイをしながら、理数高校で授業を一緒に受けたり交流したりしました。受け入れは、同様の対応をします。従つて、理数高校の生徒のホームステイ先として、本校生徒の家庭で受け

し、九月一八日に引渡式がありました。

これは、文武両面にわたつて日々鍛錬する水高生によりよい環境を整備しようと取り組まれたもので、特に野外で活動する運動部が冬場や悪天候のもとでも練習可能なようにと建設されたものです。

これまでは野外で活動する部の、雨天時や冬期間の練習は、校舎の中で階段や廊下を利用したのトレーニングなどが頻繁に見られました。これでは十分な運動量が確保できないことや、危険性もあるなど土の上でのトレーニングが望まれていました。その待望の施設として、今回の記念事業で屋内運動場「昇龍館」が建設され、全天候での運動が可能な場が提供されたことになりました。

既に、体育の授業や各部（サッカー男・女、ラグビー、野球、ハンドボール、陸上）の練習に活用されており、とても快適な練習場です。「もっと早くできていれば良かった。」など感謝と歓迎する声が顧問や部員から聞こえ、好評を博しています。

これによって、悪天候の下でも、部活動等にも専念できる場が整いましたので、今後より一層の活躍が期待されます。

### 校舎見学会に八〇人

一〇月一六日、記念式典に先立ち、午前一時より新設された「昇龍館」をはじめとした校舎の見学会が行われ、約八〇人の同窓生や旧職員が、懐かしの学舎を見学しました。

入れていただきました。

### ノースカロライナ州立理数高校とは

ノースカロライナ理数高校は、一九八〇年に州立理数高校として創立されました。当時、民主党出身ガバナ・ハント知事の意向で造られた学校です。理数高校が造られる前は、アメリカ全州の中で四七、四八番目の学力で、教育に力が入っていませんでした。ノースカロライナ州に各国から大企業の研究施設が建つようになり、教育にも関心が高くなり、ノースカロライナ理数高校が誕生しました。

生徒数は五五〇名で、第一一、一二学年（日本の高校二、三学年相当）が在籍しています。ノースカロライナ州は約百群に分かれており、各群の理数系に優れた州内の第十学年の生徒をAO入試で選抜しています。アメリカ人は人種の垣塙と言われる通り、アジアも含めたくさんの人種が学んでいました。その中に、創立以来初の日本人が入学しており、派遣団がノースカロライナ理数高校に到着した時の歓迎式に、浴衣を着て参加してくれました。

ノースカロライナ理数高校は全寮制で、寮費、授業料全て無料です。学校にかかる経費は、数学の計算機だけです。さらに、ノースカロライナ州立大学に進学すれば、大学の授業料も無料になります。このように、ノースカロライナ州では、優秀な人材を優遇し、地元に残して社会貢献させ、地域を活性化させる事が最大の目的なのです。生徒は在学中親元から離れた生活を送っているの、大学で一人暮らしをしても、



記念事業報告  
創立100周年記念事業実行委員会  
委員長 長野耕定



創立100周年記念事業協賛会会長挨拶  
会長 及川源悦郎



昇龍館

それが原因で止める生徒はほとんどいません。学校の規則を見ると、学習に専念させるために、アルバイトをすることは、禁止されています。理数高校で日本語授業を担当している諏訪先生の話によると、服装は自由であるが、日本の学校より制約があり、最近では制服がある学校もあるそうです。食事はすべて食堂(カフェテリア)で取ります。三々四種類ある主食を一つ選び、飲み物(ジュース、スポーツ飲料、コーラ、コーヒ、紅茶)、スープ、野菜、デザート(果物、ケーキ、ソフトクリーム)等豊富にあり、水沢高校からの派遣団も同じものをいただき、大変満足しました。

(平成一八年引率教諭 小原 信)

### 派遣事業に参加して

三年 小野寺 美沙

私の今回の研修テーマは、コミュニケーションの力を養うことと、日本とアメリカとの教育現場の違いについて学んでくることでした。

一つ目の「コミュニケーションの力を養う」という点では、ホストファミリーやホストスチューデントとの会話を通し、少しは身についたのではないかと思っています。相手のことを知りたいと思う気持ちだけで会話してしまいました。今までは「相手に伝わらなかつたらどうしよう」とか「文法が分からないから喋れない」とかコミュニケーションをとる以前に、自分の中で壁を作っていました。だから、そのような壁を克

服できたことは私の中では、大きな成長です。そして、ホストファミリーやホストスチューデントと過ごした四日間は、大切な宝物です。一生忘れないと思います。

二つ目の「教育現場の違いについて学ぶ」というのは、思っていたよりも難しかったです。日本語クラスの授業を何度か受けましたが、私たち日本人にも難しいのです。先生曰く、「母語話者だから話せる」のだそうです。だから、私たちが習っている英語もアメリカ人に見てみたら難しいのかな、って思いました。しかし、NCSSMの生徒さん達の授業に取り組む姿勢には、見習うべきことが多々ありました。進んで手をあげ発言したり、分からないことを皆で分かるうとしたり、今までの私にはできなかったことです。間違いを恐れずに発言することの大切さを実感できたのです。

また、アメリカという地に実際に行けた事で、たくさんの方を吸収して帰って来られました。一つ一つの建物の壮大さや、その建物が歩んできた確かな伝統の素晴らしさには、目を奪われてばかりでした。その中でも、特に印象的なのはリバイ島にある「自由の女神」です。私は、自由の女神はアメリカの象徴だと思っています。自由の国であるアメリカでは、自分の意見を持ち伝えることが大切です。そんな中で、一週間という短い期間ではありましたが、過ごせたことは、これからの私の人生に影響を与えてくれました。

そして、オプションでは絶対に組み込むこと

ができない貴重な体験もしました。それは、飛行機のエンジンの故障です。何事もなく進んでいた旅の最後のことでした。飛行機が着陸するまで私の中にあつたのは「生きて帰りたい」という気持ちだけでした。大げさに聞こえるかもしれないませんが、「やり残したことを、伝えたいこと」など、たくさんの後悔がありました。そして、これをきっかけに「何事も後回しにせず、できるうちにやりたい」「明日が来ることは、当たり前ではないのだ」と思うようになりました。ターミナルでの長い長い待ち時間、田中先生、信先生が奮闘しているのにも関わらず、何もすることができなかった自分の未熟さ(英語をもっと学んで話せるようになりたいと思いました)、一人での飛行機の旅：皆に励まされ、勇気付けられ、大きな力を貰い、貴重な経験をさせて頂きました。皆で協力し、助け合うことが、これほどまでに大切であると感じたのは初めてのことでした。そして、このメンバー10人の仲間と旅ができたことを誇りに思います。

最後に、海外派遣の機会を設けてくださった校長先生を始めとする諸先生方、引率していただいた、田中先生、信先生、本当にありがとうございました。これから、世界に目を向け自分が見たいことを見つけ、その目標に向かって行くように頑張ります。

(平成一九年七月二二日発行

水沢高校PTA会報「飛龍」より)



校歌四部合唱



生徒代表謝辞  
生徒会長 小野寺 亜美



感謝状贈呈



式辞  
校長 佐藤成人



告辞  
岩手県教育委員会委員長  
八重樫 勝



記念コンサート  
 テノール歌手 福井 敬氏  
 (昭和56年卒)  
 ピアノ伴奏 谷地重紬子氏



記念講演会  
 講師 菊地広哉氏  
 (昭和51年卒)  
 演題 「活躍するアスリートに  
 学ぶ生き方」



受付ホールの一コマ